

配布日時	令和7年12月23日
扱 い	本紙配布を以て解禁

「北陸の建設技術」Web版の記事を募集します

募集記事の概要

1. 掲載内容

北陸地域の最新の建設技術や地域の動き、工事事例、建設技術に関する新しい工法や新しい材料の紹介設計・積算に関する各種基準、指針等の改訂概要、建設業に関する各種イベントなど、建設技術者に役立つ情報

2. 「北陸の建設技術」運営について

北陸地方建設技術報告・広報委員会にて編集、WEBサイトにて配信
アクセスはこちら  <https://www.contech-hokuriku.info/>
閲覧無料

3. 記事投稿先

contact@contech-hokuriku.info

4. その他

建設事業の推進に資する内容であり、掲載にふさわしいと判断した場合に掲載を可能とします。

原稿料無償で提供をお願いします

詳細は「北陸の建設技術」原稿執筆要領」を参照ください

北陸地方建設技術報告・広報委員会

北陸地方整備局／新潟県／富山県／石川県／新潟市／東日本高速道路(株)新潟支社／
中日本高速道路(株)金沢支社／(一社)日本建設業連合会北陸支部／
(一社)日本道路建設業協会北陸支部／
(一社)新潟県建設業協会／(一社)富山県建設業協会／(一社)石川県建設業協会／
(一社)建設コンサルタント協会北陸支部／(一社)日本建設機械施工協会北陸支部／
(一社)北陸土木コンクリート製品技術協会／(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会北陸支部／
北陸PC防雪技術協会／(一社)新潟県融雪技術協会／(一財)新潟県建設技術センター／
北陸地質調査業協会／(一社)日本埋立浚渫協会北陸支部／(一社)北陸地域づくり協会／
(一社)日本橋梁建設協会北陸事務所

同時発表記者クラブ

新潟県政記者クラブ
新潟県政記者クラブ
富山県政記者クラブ
石川県政記者クラブ
その他・専門誌

お問い合わせ先

北陸地方建設事業推進協議会
「北陸地方建設技術報告・広報委員会」事務局
(国土交通省 北陸地方整備局 北陸技術事務所)
TEL：025-231-1281（代表）
副所長 以倉 直隆（内線205）

北陸の建設技術WEBトップ画面



北陸の建設技術は…

北陸地域における建設事業の「現在」と「将来」を担う建設技術者の皆様へ、最新の建設技術や地域の動き、工事事例などの役立つ情報をお伝えするWEBサイトです。

下記の23団体にて構成する「北陸地方建設技術報告・広報委員会」により、それぞれの分野の情報を発信してまいります。

北陸地方整備局、新潟県、富山県、石川県、新潟市、東日本高速道路(株)新潟支社、中日本高速道路(株)金沢支社
 (一社)日本建設業連合会 北陸支部、(一社)日本道路建設業協会北陸支部、(一社)新潟県建設業協会
 (一社)富山県建設業協会、(一社)石川県建設業協会、(一社)建設コンサルタンツ協会 北陸支部
 (一社)日本建設機械施工協会 北陸支部、(一社)北陸土木コンクリート製品技術協会
 (一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会北陸支部、北陸PC防雪技術協会、(一社)新潟県融雪技術協会
 (一社)新潟県建設技術センター、北陸地質調査業協会、(一社)日本埋立産業協会北陸支部
 (一社)日本橋梁建設協会北陸事務所

【事務局】

北陸地方整備局 企画部施工企画課、港湾航空部海洋環境・技術課、北陸技術事務所、新潟港湾空港技術調査事務所
 (一社)北陸地域づくり協会

最新記事 NEW POST



2025.12.05

令和7年度建設技術報告会の聴講者を募集しています！

北陸地方建設技術報告・広報委員会事務局



2025.12.04

国道403号「三条北道路」の全線開通

新潟県 三条地域振興局 地域整備部 道路課



2025.11.18

冬用タイヤに交換しよう

北陸地方整備局 北陸雪害対策技術センター



2025.11.12

(主)高岡環状線 高架化事業の一部供用について

富山県高岡土木センター



2025.11.07

北陸のインフラづくりの提言

建設コンサルタンツ協会北陸支部 技術部会 神田 和久



2025.09.26

令和7年度 橋梁技術発表会及び講演会のご案内

(一社)日本橋梁建設協会

「北陸の建設技術」原稿執筆要領

本要領は、「北陸地方建設技術報告・広報委員会」（以下「委員会」という。）が運用・公開している「北陸の建設技術」ホームページに掲載（投稿）する原稿について、執筆する上での注意事項や内容などに関する必要な事項を定めるものです。

1. 転載許可・著作権などに関する基本事項

（第三者文献・書籍等の転載）

原稿の執筆に際して、第三者の文献・書籍等から図・表、写真などの転載を行う場合には、著作権に関する問題は執筆者の責任において、執筆前までに承諾を得て下さい。

転載許可が得られた際には、原則、転載許可書のコピー（電子媒体でも可）を事務局に提出して下さい。

第三者の文献や書籍やホームページ等からの引用や転載をした場合、その引用・転載元を原稿末に記載して下さい。

（例）著者名、書名、論文名、出版社名、発行年、版、巻、号、引用ページ等

「北陸の建設技術」ホームページに掲載する投稿記事に起因して、第三者の著作権その他の権利及び利益の侵害問題を生じさせた場合は、当該掲載記事の執筆者が一切の責任を負うものとし「北陸地方建設技術報告・広報委員会」は、一切関与しないものとします。

（第三者の肖像権等に関わる掲載）

人物の特定が可能な顔写真などを本人に無断で公開すると、肖像権の侵害にあたる可能性がありますので、第三者の権利保護に十分注意し、第三者の写真や人名等を入れる場合、個人を特定できない処理や被写体本人の事前承諾を得て下さい。

2. 記事執筆に関する基本事項

（1）執筆記事の記事種類（コンテンツ）

投稿記事は以下のコンテンツを基本としますが、最新の情報を広く情報提供するためどのような記事でも投稿可能とします。

- ・トピックス：講演会、講習会、イベントなどの開催案内、開催結果など
- ・地域の動き：プロジェクト事業、地域連携事業、事業実施による効果、
国・地方公共団体の動向や基準改定および施策等の情報など
- ・技術レポート：新技術・新工法を活用した工事・工法、アイデア、創意工夫
などで大きな成果が得られた事例、施工途中の現場報告など

なお、講習会・講演会などのイベント案内については、原則、非営利団体や官公庁等が主催するものに限り、これ以外（民間主催など）のイベント案内は事前に事務局へ相談して下さい。（応相談）

技術レポートなど受注工事の記事を掲載される場合には、発注者や関係者に記事内容を承諾された記事を提出して下さい。

(2) 執筆記事の投稿

原稿の提出については、投稿時期、執筆コンテンツ等は決められていないため、自由投稿が原則となります。

執筆者は投稿記事内容を踏まえたうえで、ホームページでの公開時期（投稿時期）を決めて下さい。

ただし、事務局にて執筆内容の確認や公開作業などの時間が必要となりますので、公開を希望される2週間前までに原稿を提出して下さい。

記事内容に関しては執筆者の責任において校正されたものを提出して下さい。

なお、提出後に記事内容の不備や明らかな誤植があった場合には、執筆者の修正が必要となりますので公開が遅れる場合もありますことをご承知おき下さい。

3. 原稿データ作成に関する基本事項

以下の各項には、別添の「原稿執筆_基本様式」（Microsoft Word）に基づく、基本構成、書体・ポイント、割付文字数、最大頁数などを参考に記載しています。

記事項目（コンテンツ）や記載内容により、別のソフト（Microsoft Excel や Power Point 等）の使用、自由様式での作成も可能とします。

ただし、提出する原稿には執筆者の「会社名（団体名）・所属・執筆者名」と「問合せ先」は必ず記載して下さい。

なお、別添の「原稿執筆_基本様式」（Microsoft Word）は「技術レポート」の投稿を基本とした様式となっています。

(1) 原稿サイズ

原稿はA4判、横書きの和文を原則とします。

別添の「原稿執筆_基本様式」（Microsoft Word）を参考に作成して下さい。

(2) 基本構成

余白は上下部20mm、左右部25mmとする。

基本様式の1ページ目上部の指定箇所に「タイトル」「サブタイトル」「会社名（団体名）・所属・執筆者名」「抄録（概要）」を記入し、続いて、本文を記入して下さい。

「サブタイトル」および「抄録（概要）」については必須ではありませんので、不要の場合には空白として下さい。

最終頁には「問合せ先」を必ず記入して下さい。

なお、問合せ先は掲載記事に関する問合せに対応が可能な執筆者等の所属・氏名・連絡先（住所・電話・メールアドレス等）を記入して下さい。

(3) 基本書体とポイント

原稿作成に使用する書体は、原則、以下のとおりとなります。

- ・「タイトル」：16 ポイント、MS ゴシック体
- ・「サブタイトル」：12 ポイント、MS ゴシック体
- ・「会社名・所属（執筆者名）」：11 ポイント、MS ゴシック体
- ・「抄録（概要）」：11 ポイント、MS ゴシック体
- ・「本文」：11 ポイント、MS 明朝体
- ・「問合せ先」：10 ポイント、MS ゴシック体

なお、原稿内において大見出し・章、中見出し・節、小見出し・項などに区分する場合には強調やフォントポイントを変更しても構いません。

(4) 割付文字数と最大頁数

「原稿執筆_基本様式」(Microsoft Word) の本文文字数は前項の書体ポイントでは、以下のとおりとなります。

ただし、1 頁目と最終頁は「タイトル」や「問合せ先」などを記入するスペースを設けているため、1 頁あたりの割付文字数は少なくなります。

- ・1 頁目：1 行の文字数 39 文字（全角）×37 行（1,443 字）
- ・本文頁：1 行の文字数 39 文字（全角）×50 行（1,950 字）
- ・最終頁：1 行の文字数 39 文字（全角）×44 行（1,716 字）

最大頁数は、写真・図表を含め、6 頁程度（目安）でお願いします。

- ・1,443 字 + (1,950 字×4 頁) + 1,716 字 = 約 10,959 字

(5) 図・表の割付

図や表を用いる場合は本文中に引用を必ず付けて下さい。

（記入例） “ …図 1 は施工概念図である。 ”

“ …表 1 は新技術と従来技術のコスト比較表である。”

図や表には先頭から図 1、図 2 や表 1、表 2 のように番号を振って下さい。

図のタイトルやキャプション（説明文）は、図の下に記入して下さい。

表のタイトルやキャプション（説明文）は、表の上に記入して下さい。

(6) 写真の割付

写真も図や表と同様に本文中に引用を必ず付けて下さい。

（記入例） “ …写真 1 は実施状況の様子である。 ”

写真には先頭から写真 1、写真 2 のように番号を振って下さい。

写真のタイトルやキャプション（説明文）は、写真の下に記入して下さい。

写真の使用にあたっては、第三者の肖像権やプライバシーに関して十分注意して使用して下さい。

(7) 引用文献リスト

本文中に引用した文献を引用順に番号とともに記載して下さい。

著者名は全員を記載する。ただし、著者数が4名以上の場合には、筆頭から3名までを列記し、それ以降は「、他」などと表記して下さい。

文献の発行年は西暦で表記して下さい。

雑誌の場合は、著者名、論文タイトル、雑誌名・巻数(号)：初項、終頁、発行年を記載する。

Web ページなどで、逐次的な変更が前提となっているコンテンツを引用する場合は出版データのあとに括弧を付記し検索日を記載して下さい。

ただし、官公庁発行の白書、報告書等の刊行物については、発行元を省略することが可能です。

4. 原稿データの提出方法等

(1) 提出方法

原稿データは、原則、下記の提出先のメールアドレスに原稿のデータを添付して送付して下さい。

原稿データはオリジナルデータ (Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft PowerPoint など) と閲覧用データ (PDF) の両方を提出して下さい。

なお、原稿データの容量が大きく、メールでの提出が困難な場合には、データを電子媒体 (CD、DVD など) に格納し、郵送にて送付して下さい。

また、執筆者の都合上、他の方法で提出を希望される場合には、事務局に相談して下さい。

提出する原稿に挿入した写真・図・表を別途、提出することも可能です。

(2) 提出時期

原稿データはホームページの公開を希望される2週間前までに提出して下さい。

(3) 提出先

「北陸地方建設技術報告・広報委員会」事務局

(北陸地方整備局 北陸技術事務所内 担当：技術情報管理官(新技術))

〒950-1101 新潟市西区山田2310番地5

電話：025-231-9930

Eメール：contact@contech-hokuriku.info

以 上

サブタイトル

タイトル

会社名・団体名(執筆者名)

抄録(概要)

■問い合わせ先

電話： — — / Eメール：